米原市総合計画　第 1 回「安全・活力」部会　会議録

日時：平成 18 年 6 月 23 日、19:00～
場所：ルッチプラザ 2F 研修室
出席：宮部、市川、矢野、寺村、北村、大長、澤、谷口、藤田（敬称略）

１．部会長あいさつ

２．事務局資料説明

- 新市まちづくり計画の説明
- フリートーキングについて
- 部会の進め方について

３．討　議

- まだ入口の部分だが、今日、米原市の自治基本条例が制定されたと聞いた。基本的に自治基本条例を取り組んでみた中、これからこういったものを取り組む為のある意味では全体をコントロールするという大きな意味合いがある。自治基本条例との関わりについて触れておいてほしい。
- 今日、6 月議会の最終日で可決した。9 月 1 日施行で、それまでは周知期間としている。この基本条例は 2 年条例で 7 つの柱を持っている。
  （以下条例の説明、略）
- せっかく出来たのだから、その意識を考えてこの中に取り込んでいくことをしておかないといけない。
- 自治基本条例には米原市をどういうまちにするのかという理念が基にあって、それを市民が一緒になって作っていこうという主旨が基本にある。そうすると今度、計画や構想を作る段階でそれをおさえた上で具体的に理念を実現していくかという対案をつくっていくことになる。これが総合計画である。その後また実施計画が 3 年ピッチである。それが予算に反映してくる。
- 自治基本条例の理念に基づいて総合計画を作っていく上で、市役所が勝手に全部絵を描いて「はい、これで」というのは自治基本条例の考えから全く反している事になる。そこには市民が参画して総合計画を作るということを言い切っている。
- 「自主自立」「都市経営」「持続性」というキーワードがある。「持続性」は世代を超えてまちに住み続けられる町にする。それらをそれぞれが協働で市は市、市民は市民でやること

が義務づけられている。

- 条例が条例だから、条例をつくってしまうというのは語弊があるかもしれないが縛られてしまうというか、尊重しなければならないということである。
- 指針や方針ではなく、条例なので必ずそのようにしていかなくてはいけない。
- 合併するしないに拘わらず、条例の形で作っている所はそう沢山はないのか？
- 記者発表でも、合併をしたまちでは初めてだそうである。しかし今まで合併せずにきた町の中では 20～30 くらいの都市で制定されている。いちばん最初は北海道のニセコ町が作った。要は地方分権推進法が平成 12 年に出来て、これから地方にどんどん権限やお金が降りてくる訳だが、その時行政も市民も同じ考えをもってまちづくりをしていなければいけないということを何かでつくって示していかないといけない。合併したまちとして、まちづくりの基本方針をこういう形で示せたというのは、我々としては大変ありがたい。それに基づいてまちづくりをとの方向性が示されたわけなのでありがたいと思っている。

（新市まちづくり計画の概要説明）

- 構想の段階からずっと、計画の策定方針などの色々な指標が出来上がっている。再来週には 3 部会を経て総会で作られる。最終的にはこういうページ数の間隔なのか？これは中身をみると非常に簡単に書かれている部分がある。もう少し補足した方が本来計画としてはいいのではないか。
- それは審議会の委員の議論になっていくと思う。こちらのイメージとしては、これの倍以内の厚みになっていくと思う。もっと詳しくそれぞれの説明をして、どういうまちづくりをしていくのかを示す。
- 骨組みとしてはこういう骨組みになるんだろうけど、もう少しどうかな？と思う。
- 進め方としてこれはひとつのたたき台。特例債を受けるための暫定的なものとみればいい。こういうこともあるという事も事実だし、またこれだめですよと言う話にならないように。この中で 10 年後見据えたときに直していかなければいけないだろうという考え方でいいのか。
- これはたたき台である。地方公共団体の置かれている現状からすると、見ていただいたらわかる通り、ものすごい数の事業量をやる。これを見る限り、10 年間これだけのことをするのは不可能だと思う。それをすべて否定してやめるものではないし、20～30 年後になるかもわからない。今の米原市としてどういったものを集中的に行っていくか。いろいろな手法を使って審理をしていただきたいと思う。その中で「合併した町にこういう事業は必要ないのでは」などの議論もあると思う。そういった事を一つ一つ積み上げながら新市の

方向性を決めていきたい。

- 個別の事業どうこうという審議ではなく、方向性の部分それをこの中で話して決めて頂く。それに基づいて行政側がそれに向かっての施策を作っていく。
- これからの審議の時間配分をきちんとやらないと、これだけのことをやろうとするとなかなかどこから入っていいか分からなくなる。最初にある程度、時間配分を決めながらした方が良い。何からかかればいいのか手法の問題。

（進め方説明）

- こういうスタイルはあまりないと思う。気になることは時間が必要になってくるとこと。時間的な問題としてこういうやり方で、それを一つ一つ取り上げていかないとできない。私は大丈夫かなと心配する。皆さんは如何か。非常に良いやり方だと思うが。
- 求められることとしてはならないこと、悪いところ良いところをまた他にどんどん委員から出てくるので、第一段階でそれを出していく必要がある。出していけばこれに限らず出て色んな案が出てくると思う。もうひとつ時間がかかると思うのは、人口推定をどうするのかという所。非常に難しい要素である。
- 私も 20 年近く人口推計をやってきた経験がある。私達が出した数字は計画書からことごとく外されて、絵に描いたような数字がポンと上がってくる。結局は最初に私達が実数で描いた数字しかなっていないことが現実としてある。計画書にあげると体裁がつけられたという非常に大きな欠点がある。その部分をどう見ていくか。
- 米原市をとっても、伊吹、山東、近江、米原それぞれの単体の市町村をみても計画どおりに実行が増えていることはまずない。この辺の捉え方をどうみるかが非常に大きな問題となって出てくると思う。
- もうひとつ情報出して欲しいのは、米原市の産業別の住民 1 人当たりの所得がどういう形態になっているのか。例えば農業所得であれば一世帯あたり米原ではいくらになるのか、或いは年金所得はどれだけ占めているのか。そうするとこの町は年金給付者が多いのかで、それによって町づくりを考えないといけない。出来ることと出来ないことがそこで分かれる。若者が非常に多く、これから活力ある生産人口が多く、そこに所得が集中していたらそれなりの事はやってもいいと思う。国からの助成がないので、自分の所だけで生きていかなければならない。持っている人・物・金を活かさないといけない。そこら辺の情報が我々には全くない。
- 簡単にそれは出ると思う。地域的にそういった情報があればもっと議論が、ここに出てくる内容が変わると思う。
- 一度調べる。

- 例えば分かり易く言うと「農業所得」がある。米原市に農業所得があって、どれだけ農業所得から税金が入ってくるかで課題が見つかるはずである。そうするとその農業をきちんとしなければいけないと書いてはあるが、農業所得から税として上がってこない原因と課題がどこかで見つからないと、総合計画に活かそうにも活かされない。農業というのは自然ですから総合計画の根幹である。農業はいらないと切り捨てる訳にはいかない。その辺が皆さんに理解して貰えたらと思う。そういうところを皆さんが知って頂いたら、もっと楽しく色々な議論ができるのではないかと思う。今は非常に抽象的で数字がでてこないから目に見えてこない。
- 構想と計画をどこかの時点でどこまで実現できたか検証する。その時点の所へ数字の上で影響してくる。
- これだけ財政的に厳しくなってきて、何でもでっち上げればいいという時代ではない。目に見えて市民がこういう計画があって、それをどれだけ実現したかを分かることを広報でオープンにしていかないといけない。そうすると検証していかなくてはいけない。そこで数字の上の問題とか、抽象的な文章だけでやると検証できない。
- 農業施策やいろんな施策をする目標値、指標として、所得を目標値として掲げ、例えば今 10 万円とすると、10 年後には 20 万円が目標を掲げるとか、そういう可能性もあるし、または生産量で目標を掲げることもある。これからの中で話し合って行くと思う。
- 私が何故そう言うかというのは、農業所得が低い原因というのは、農業の基盤整備が総合計画として取り入れられてこなかったから、結果として農業の所得も低いのか、或いは担い手をどうこうしようとしても集まらないのは農業に魅力がないのか。それを市民にきちんと知らさないとやるべき事がわからないような気がする。だから情報がちょっと足りないと思う。言葉の情報としてはこれで充分。
- 今の進め方としては先程のお話であった良いところ悪いところから始まるということか。
- サンプルの 11 ページで掲げている「丸ごと自然公園」のまちづくり施策を検証するわけですが、そこへ持ってくるには･･････「丸ごと自然公園」のまちづくりの下にある基本施策、その下にある単位施策。こういったことを中の四角に積極的に取り組むことであるとか、改善することに割り振っていく。そこで見えてくる積極的に取り組む所に例えば「新エネルギーが入ってくる」とかを見ながら整理され上がってきた物を見て、これが「丸ごと自然公園」のまちづくり施策でいいのかということを考えていただきたい。最初の段階では米原市の良いところ悪いところ、求められている事としてはならない事の 4 つを皆さんからあげていただきたい。ここに関しては後日のフォーラムのアンケートにも書いていただきたい。まもなく出る米原予算の中のアンケートにも入れる。若手職員にもこの部分を出して貰う。色々な所から引っ張ってきて、良いところ悪いところ、求められている事としてはならない事を出して書いてある四角に割り振っていく。という整理をしようと思って

いる。

- 「丸ごと自然公園」の言葉を一つ一つ見てみると、お互いにぶち当たってしまう所がたくさんある。正面からあたっているのか。
- 森林の保全は大切だし、例えば他の施策では市民を増やすためには宅地開発しなければいけないなどが出てくる。むやみな乱開発はやってはいけないが、計画的に住宅地は作りましょうと、色々な条件が混ざって難しい所ではある。それを市民の目から見た所を整理が出来たら大きな方針が出てくるのではないかなと考えている。
- 例えば 4500 人、3500 人住民が増えたら、宅地をどこに確保するのかというと農地などを確保する。これは農地を潰すことになる。それにかわって今は農地では無いところを政策として農地化していくことも併せて計画書の中に盛り込まれないと、お互いにぶち当たっていく。一つの視点だけではなく、この視点を確保するために、こっちの視点も同じレベルでものを見ていって総合計画を立てていった方が解決につながるのではと思う。
- 具体的な個々の事業ではなくて、全体の計画の中に、総合計画の中に責任を押しつけてしまう。そういうことは自治基本条例に自主自立だという面からするとそういうことになる。自分達が住みやすい地域を自分で作りなさいということである。
- もう一点が、行政がすべき事と市民が自らやらなければ行けない事を入れていくと、改善しなければいけない事、積極的に取り組むべき事がより実現的になる。やってはいけない事についても市民自らがブレーキを掛けて、毎日の生活の中で控えることも出てくると思う。今、かなり細かい事業を硬い言葉で書いてあるが、もっと柔らかいものを出していって、それが方針にまとまっていく姿が一番理想的だと思う。
- 自分達のお金や資源で金・もの・人をこれから活かしていかないといけない。国の金・もの・人は当てにはならない。そのために今は米原市が置かれている金・もの・人がどういう状況なのかという情報が必要になる。

（各自自己紹介及び豊富を語ってもらう説明）

- 旧近江町日光寺地区の山林を貸していただいて「やまんばの会」という里山整備の団体をしています。会員も現状ではさほど多くありませんが、木の伐採などをして森林を明るくするということをモットーとしてやっています。今、年間一千人くらいの子供達が来るので、子供達に里山体験をさせて、里山の整備を行っているのが現状です。米原市には沢山の自然や森林があります。私は今、農協につめていまして醒ヶ井の店に転勤してきて、毎日カミリュウとかにいきますと非常に自然が多いですが、松枯れや山に入るにも山が荒れていて恐いくらいの所がありますが、私達がちょっとずつでも整備しているのでそういうことがあればもっとやっていきたいと思っています。自然相手なので協力していきたいと

思います。現状「やまんば」の方に何人か来られるのですが、薪ストーブを買ったので薪が欲しいと来られる。私達が切った木の処分に困っていたので、無料で薪を持って帰っていただいてその方も会員になられた。そういう形で資源の再利用ができます。

- 私は自治基本条例にも関わりました。平成 12 年から役所を辞めてイソという所に住んでいます。戸数は 380 戸程ありますイソの村は自然が豊かなのですが、ご承知の通り荒廃しきっています。私達がイソで生まれて、生涯限りなく過ごせる村にするにはどうしたらいいのかという議論から入りまして、自分達のまちの自主自立ができるまちづくり計画をたてました。それには 3 つの柱があり、40 ヘクタールあるイソ山を私達が小さい時に遊んでいた夢をもう一度、今の子供達にその夢を実現させてあげたい願いでイソ山の整備をしようというのが一点です。もう一つはイリエ干拓という干拓地があります。それが農地として非常に荒廃している部分が 27 ヘクタールあります。そこをなんとか有用農地に変えられないかという考え方で、人の財産ですが、土地を活用することを区民に「ここはこうしますよ」と検討した結果を区民集会を開いて提案しました。そしてこういうことをしようとしているという冊子を作って全戸配布し役所にも配りました。そういうものを今度の地域で出来る事、行政でやる事、国でやる事と 3 つに分けて考えていった経過があります。その経過の中でこういうものを総合計画の中へ地域から発信された内容を総合計画に取り込めればいいと思い参加しました。今イソ山については昨年 4 ヘクタールが終わりまして中学生の子供達が遊びに来ます。私達、老人クラブや地域の皆さんと一緒に見にいっていますので、お互いに連携しながら子供達の遊びや自然体験の場にしていこうと考えています。
- 私も自治基本条例をつくる会に参加させて頂きまして、ご一緒させて頂き学ばせて頂きました。皆だんだん発言する体質にかわってくれたというのが良かったと思いました。私は NPO「エコ村ネットワーキング」で人と環境に優しい地域や社会づくりをしています。地域の方では村づくり委員会の活動を 6 年前からやっています。そちらの方でも地域の皆さんと一緒に活動しています。私が今回こちらに参加させて頂いたのは私なりの問題意識を持って参加させて頂きました。ある程度は自分達の努力であげることができます。それも総合計画にいれないといけない。チャレンジ精神を総合計画に入れないといけない。というのは市を考えるときには、もちろん暮らすことは大事ですが、暮らすことと働くことと集うこと、そのバランスがないといけないと思います。先程の農業の問題もありますが、地域の色々な活性化の問題もあるのでそれをやっていかないと全体が上がりません。活力の部分をどんどん抑えると魅力がなくなり若い人が出て行ってしまう。そのバランスを見据えた形で総合計画をつくる必要があると思います。今まではどちらかというと市役所の方や先生方中心でしたが、暮らしに関わっているものからも意見を言っていいのではないかと思い参加させて頂きました。今までの総合計画はどちらかというとハデなものでしたが、今までお金での充足感ばかり作ってきたが、それはもう限られています。後は心や自

分達が活動した事による充足感が重要になります。今回作られた総合計画というのは、作って、チャレンジでもしかするともっと良くなるというものを私は作りたいと思います。先程で気になったのは、この部会は都市計画や道路、情報ネットワーク、米原駅周辺や地域の産業など全部入ってきます。このへんの所も適宜情報公開をしていかれることがこれからの時代にあっている。そうしないと住民が言っただけで道路を作っていたらいけない。理解を得るためには、出せる段階でどんどん情報を出して頂く。根幹にあるのは世代を超えて良好な環境、健全な地域経済の活性、市民の地域での連帯、持続的発展というのが自治基本条例にありました。これが根幹になって都市計画に反映しないとといけないと思います。

- 私は旧山東町のアサヒというところで生まれ、学校を卒業して名古屋市に就職しました。名古屋市の行政を 36 年位やっていました。またこちらへ戻ってきて 15 年ぐらいになります。地域の方ではこの年齢ですからたいしたことはやっていませんが、老人クラブの会長やお寺の役員などをしています。皆さんからお聞きした活動はあまり詳しくはありませんので適任かどうかはわかりません。ただ行政については大都市におりましたので、米原や山東とは規模が違いますが、名古屋市の計画を作るときも関わっていました。或いは半分は行政ではなくて事業体、交通事業をやっていますので、バスや地下鉄の管理体制を作ったりしていました。多少事業的な感覚で何かできることはあるかなと思っています。この中で作る場合に考えていかないことは、まだ合併をして時間が短いですから 4 つが一緒になる感覚で、まだまだそれぞれ 4 町の地域の意識が残っている。その辺を意識しながらつくっていかないといけないかなと思います。特に交通の部分もそうですが、人のつながりをどうやって作っていくか。或いは観光だとかイベントや産業だとか、農業も含めて考えていかなければ行けない。早く一体になって活動が出来るようにしたい。ところが三位一体の改革で財政的に大変厳しくなってくるのであれもこれもとはいかない。その場合に気をつけなければいけないのは、あれもこれも選択する場合に地域のバランスをある程度考えて選択していかないといけない。特に 3 つの部会の中では、安全活力部会がハードの面を持つ形になりますし、背骨になってくる。なかなか整理の仕方が難しいと思う。
- 昨年の 4 月にオープンしました「山菜の森」につとめています。昨年 8 月に道の駅になりまして、より遠くからのお客様が随分増えてきました。皆さん足を運ばれるのは直売所です。地域の方、特に米原市内の皆さんが作った野菜や工芸品を出しています。その方達の生き甲斐づくりになっています。特に出されている殆どの方が、50 代～80 代の方で、仕事をいったん退職された方がこれからは野菜を作ってここに出そうと意欲を燃やされている方も居ますし、また女性の方もここに持って行かないとと、ここに来て病気も忘れてしまうと話す方がいるので生き甲斐づくりになるかなと思っています。近くの米原以外からも来られますが、旧近江町とか旧米原町小さい時は来たけど最近来たことがないのでこんな

所が出来て良かったと仰って頂いています。また交通の便が良いので、愛知県や大阪方面からお越しになる。地元の野菜を或いは伊吹山が見られる所ですので、伊吹山も大きな魅力のひとつになると思われます。そういう所をもう少し PR して都市の方と田舎の方との交流の場の拠点になっていけばと、毎日色んな方のお話を聞きながら今後もそれを活かしていきたいなと思っております。

- 現在お寺の役員も一緒にやっています。私は役場に 35 年ほど勤めておりまして、辞めてからもう 12～3 年になります。一般からは行政に明るいのではと思われていますが、もう年月がたっておりますのでどうこうと言える立場にないと思っております。そうした中で、辞めてから米原市の文化協会の会長を仰せつかっています。文化協会は 4 町が合併しましたので会員数は 2000 人前後です。事業はどうしても各支部で活動して貰っています。それでは合併した意味がないということで順次ひとつにしていこうということで今の所は交流を深めていく。いろんな方向にもっていこうと色んな活動をしてもらっています。その他に山東町の組合の組合長もやっています。若い人がやってくれないし、だんだんと高齢化しているので老人会の世話の格好になっている。趣味の講座で、園芸講座の講師をしている。比較的年を取ったかたですが住民の皆さんと触れあう機会は多いと思います。しかし行政については大分年も取ってきていますし、今考えておられる事と気持ちがかけ離れておりますので、出来るだけこうした会合に出て勉強しながら少しでも役立ちたいと思います。

（部会の進め方等について質問や意見があればどうぞ。）

- 次からは検討や意見が述べられるような焦点を絞って進めて欲しい。今日の所は全体的な部分をみるということですが。
- 今日は策定方針と計画書を充分理解していただいて、皆さんがどういう思いをお持ちかという所を予定していた。次回からは分析に入らせて頂く。この部会で話し合う「まるごと自然公園」のまちづくり、下にぶら下がっている各施策のところを分析していきたいと思う。米原市の良いところ悪いところ、求められている事、してはいけない事を皆さんに考えておいて頂けるとありがたいと思っている。ただ他の部会の方で、今回進め方に関して他の方法もあるのではないかという意見があって、28 日に最後もう一つの部会があるので、そちらが終わった段階で一度、部会長と副部会長それと審議会全体の会長と副会長に集まって頂いて、もう一度進め方について方針を話し合って頂いて、それから次に進みたいと思っている。
- 前回部会で出ていたのが、もともと 7 つの体系があり「らしさをいかすオンリーワンのまちづくり」がある。それはもともと下にある 6 つにあるものの重点的なものを引っ張って

きている。先程皆さんが仰るように米原市にお金がなくて、極端に言えば、やることは決まっているだろうと。重点事業はある程度決まっているのではという意見もある。これだったら今、動いている「らしさをいかすオンリーワンのまちづくり」の事業をあえてバラす必要はないという意見もある。進め方については、最初の全体会の時にこの辺りが十分説明できていなかった所もあってそういう経緯になった。一度、部会長などが寄って共通認識を持って頂いて、もう一度全体会を開いてどうするか方針を決めるのか、会長や副会長が決めるのかの確認を取る。

- この自治基本条例をつくる時も今の議論があり、そこでギクシャクした。これを 20 年先、30 年先にするんだという話がようやく自分達で分かってこれだけのものが出来てきた。総合発展計画についてもお金がないからもういいやと 1 年やそこらの話ではなくて、10 年先に 10 年を踏まえて次の 10 年のステップがあるので、今お金がないからいいという話ではなくて、お金をどうして作っていくのかという事も計画の中に盛り込まないといけない。そういう感覚を作っていく上においては妥当なのかと思う。その議論を一旦通り抜けないとスタートしない。最初は色んな話が出てきて停滞し、それではダメだという認識になるまでに少し時間がかかると思う。
- もうひとつはお願いだが、私は人口に非常にこだわりる。過去何年間か人口推定をやっているのでことごとく外れる。旧米原町の人口も前の総合発展計画には 16000 人というのがずっと並んでいる。私達が出したのはそうはならない。せいぜい 12600 人が限度である。どう頑張っても 12600 人しかならない。結果的に 12000 いくらかとなる。なぜそれは 16000 人になってしまうのかというのは政策人口が加わってバラ色になる。そういう形にならないようにするためには、平成 7 年の人口から、ひとつやってほしいのは各町の過去 10 年間の人口動態を年齢ごと男女ごとできちんと出して欲しい。それをグラフ化してもらいどういう状況かを知って貰う。各町の当時の総合計画書にも人口が入っている。いかに計画とギャップがあるかを皆さんに知って貰いたい。でないとこれをやる時にそういう問題が出てくると思う。
- 10 年先の人口をいわゆる目標値の様な感覚で捉えられればそんなに気にならない。今おっしゃったように誤差が出てくるとすると出生や死亡だけでなく、年齢別、転出転入も見ていかないといけない。こうした時と開発計画で住宅地をどれだけ作っていく計画でこの中に盛り込むのかによって 45000 だとかいう数字をもっていかなきゃいけない。要するに自然の動態でトレンドを見るだけではなく、今後こういう事をやるから他から人口が増えてくると。そういうことを見なきゃいけない。
- この議会の一般質問でも、45000 という根拠を示せという質問が出た。米原で区画整理をやっている所で 2 千何百人で、民間開発で 700～800 人とみている。一応根拠はあるが、少し大きくなって膨らんでみていると思う。

- 計画に見ていくとなると、都市計画の地図を全部広げて開発が出来る地域、農業振興地域などの部分を開発して人口を増やそうとか基礎からからないといけない。
- もっと細かい話、最終的に数字に表れないかもしれないが、市民が 1 人増えたらその人にどれだけコストがかかって自然コストも含めて。コストがかかることによって、そのコストを回収するために米原市としてどんな施策をするのかを含めてコンサルの仕事としてやってもらわなければいけない。
- 市民が 1 人増えたらコストがかかる。バラ色ばかりではない。
- 人口と財政では財政の方が肝心だと思う。
- けど人口だけは本当にしっかり抑えておかないと、全体が絵に描いた餅になる。その為に最初にきている。私達は何度もイヤと言うほどこれをやった。
- 秋に中間の構想が出来る。素案が出来るので、それに基づいてどう色んな施策をしていくかという計算をして将来の目標値の人口を出すので、その時に充分色んなご意見を頂ければと思う。
- 極端な話ばかりして恐縮だが、米原市が本当に高齢化社会になるのだったら、高齢者の人が住みやすいまちを徹底して作ったらどうかと。日本全国からここに高齢者が集まって、それも一つの福祉産業として成り立つ。あれもこれもではなく。
- 米原市はどういうまちづくりを選択するのかになると思う。今回の総合計画がそうなるか別にして、将来的には自主自立で独創性のあるまちづくりとはそういうことだと思う。米原市はどういう町づくりを選択して勝ち残るかになると思う。
- 年間何十兆円と福祉産業があるのだから、そういうまちづくりも方法の一つとしてあるという事。そうすると高齢者の町を徹底してつくると自家用車ではなくなるので公共交通機関が発達する。公共交通機関が発達するとその地域の商売（昔からのお店）が発達してくる。昔の要素が取り入れられる。そういうまちづくりも一つの方法です。自分の所の特徴あるまちづくりとして面白いと思う。間違いなく高齢化していく訳だから。これから 40 年間はなるんですよね。子どもが増えたとしても 40 年や 50 年はまだ進む。ここしかできないまちづくりをする。
- 主要施策としてはあげていこうと思う。それは今年、委員の皆さんの合意を経て、皆さんの中で生み出していきたいと思う。これから議論いただく根底や基本には、三位一体改革で市町村に入ってくるお金がなくなり、今まで貰っているより少ない額しかこない。そういう財政状況の中、高齢化が進み、現実として米原市の子どもがすぐ先の 6 年後には 1 校分 400 人が減る。1 校分がいなくなるという現実がすぐそこにきている。その現実をしっかり抑えた上で、議論をしていただけるとありがたいと我々は思っている。行政も行政改革なりで色々取り組みはしていますが、これからまちづくりを考える上では少子高齢化と財政問題を充分認識した上でまちづくりを語って行く必要がある。

- 米原はよく交通の要所ですと言われ、今でもそういうまちづくりを進めようとしているが、交通の要所というのは裏を返せば米原市民が住みにくいと思えば流出することがし易いということである。昼間人口が少なくなり、伊吹・山東の若者が米原の駅前のアパートに住んだりする。そういう状況で片一方は過疎化になる。そして定住しない。そういう状況を作り出しているので、交通の要所だと言って喜ぶのではなく、保護することが必要と思う。まちづくりとはそういうことなので先程言った基礎データがあればわかりよいと思う。だからペーパーに 1 人 1 人が色んな事を書いて「まるごと自然公園」以外でもいいので、色んな事を書いて出し合ったら最終的にはきれいに並んでくる気がする。
- 部会の進め方としては事務局が説明されたやり方でいくが、先程話しにあった部会長が一度集まるという事なので、どういう整備をするか終わった後で事務局と相談をしながらやる。